

はままつじょうはくつうしん

浜松城発掘通信

№14

浜松市文化財課 2020年12月19日

本丸の石垣の詳細な調査を行っています。

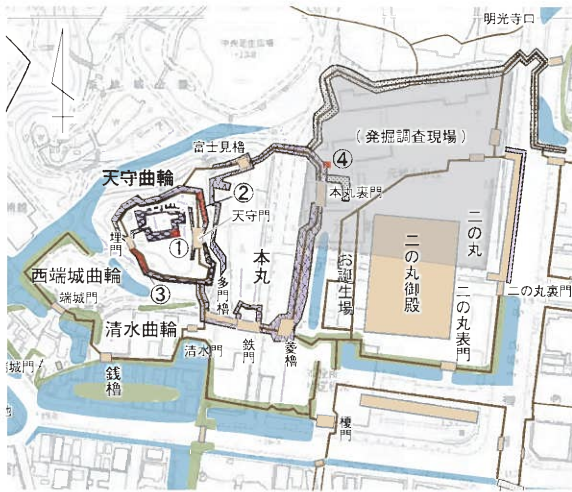
浜松城の本丸北東隅に築かれた石垣の調査を進めています。隅角部では、さらに下から石垣が構築されていることが明らかになりました。



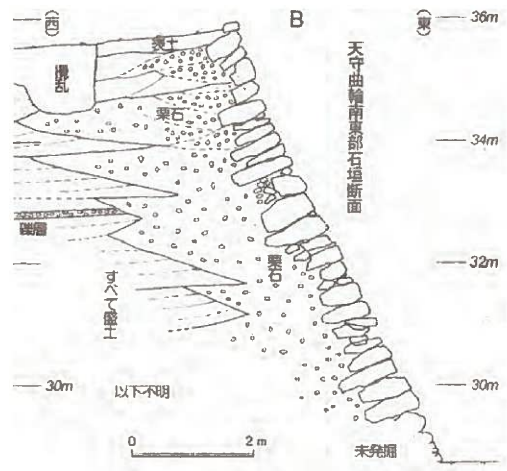
発掘調査の様子

浜松城で見られる石垣を紹介します。

浜松城には、自然石をほとんど加工せずに築かれた石垣が良好な状態で多く残っています。浜松城で見ることができる石垣を現地で実際に見比べてみてはいかがでしょうか。



石垣位置



石垣の各部名称と構造

石垣の裏側は、拳大以下の円礫を詰めた裏込めがあります。雨水等が石垣に悪影響を及ぼさないための工夫と考えられています。



①天守台南東隅石垣

隅角部では、石材の長辺と短辺を交互に積む算木積みの石垣が構築されています。大型の石材が用いられています。



②天守曲輪東側石垣

上部は、小型の石材が多く、間詰石が少ないなど新しい技法がみられ、修理されていると想定できます。



③天守曲輪西側石垣

斜面上半部だけに石垣を積んだ「鉢巻石垣」で、屏風のように折れ曲がる構造をした石垣です。



④本丸北東部隅石垣（今年度調査）

石垣は埋もれていたため、石材間に詰められた間詰石などが、露出している他の石垣に比べて良好に残っています。

浜松城の発掘調査は平日の午前8時30分から午後4時までの作業時間内において、敷地南西部の外側から作業状況を見学いただけます。